

氏名:大鳥真紀
所属学部:工学部
学科 :応用生命システム工学科
学年:2 年
派遣先大学:ラトビア大学
派遣期間:17 日間 (2/29～3/16)

・日本語教室での指導内容

～Advance～

動詞、名詞、形容詞の対義語
日本語の文章を読ませ、問題に答えさせる
日本の面白い動画紹介
日本語の文法（～によるとの使い方）

～Beginner～

簡単な日本語の会話文を作り発音の仕方の練習（買い物、乗り物の乗り方、道の聞き方等々）
日本の文化を英語の訳付きで紹介（茶道）
日本語のカルタ

・日本語教室以外での交流

生徒さん方か、晩御飯に連れて行ってくれたりお昼ご飯に誘ってくれたりした。時には、おごってもらったこともあった。ある学生はとてもフレンドリーで家に招いてくれたこともあった。また、空いてる時間にはお土産やさんを紹介していただいたり、ラトビアの名物について詳しく説明してくれたりもした。もちろん、観光地にも案内してもらって日本語の上手な生徒さんは日本語で観光地の説明をしてくれる人もいた。最後には、空港と一緒にきて見送りをしてくれた学生もおり、その学生からはラトビアのお土産にとキーホルダーとラトビアのブランド菓子のライマのケーキキャンディーももらった。

・プログラムに参加した感想

初め、このプログラムに応募した理由はただ単に海外に行ってみたいという思いからでした。日本語を教える、ということは自分たちは普段使っているから大丈夫だろうと軽い気持ちで行ってしまいました。しかし、普段どれだけ無意識的に日本語を使っているか、そして文法がめちゃくちゃなのかを気付かされ、また、英語力のなさも日本語を教えるということをさらに難しくさせることに気づきました。ラトビアの生徒たちは本気で学びたいと思って来てくれる人がほとんどで、そんな生徒たちにうまく教えられなかったことに心残りです。これらのことを踏まえ、自分が今の英語力があるのかということにも気づかされましたし、コミュニケーションをとるにもどれだけ英語が大切かを気づ

かされました。このプログラムに参加して、自分の英語で何が足りないのかははっきりしましたし考え方もまた同時に学びました。そういう意味でこのプログラムは私にとっていい刺激であり、今度はもっとしっかり準備して英語力も磨いて次もぜひ参加したいと思いました。

・自分の目標の達成や努力した経緯など

私の目標は、自分からコミュニケーションをとることでその点に関しては達成だったと思います。ラトビアの生徒たちともとても仲良くなれましたしとても楽しい時間を過ごせました。努力したことは、やはり授業計画です。アドバンスでもビギナーでもレベルはバラバラで下に合わせれば上が退屈し、上に合わせれば下が授業についてこれなくなると中々調整が難しかったです。説明が難しく詰まってしまった時には他の理解している生徒がラトビア語で説明をしてもはや自分が何しに来たのかわからなくなるくらい悲惨でした。そこでアドバンスのコースでは、一方的にこちら側が教えるというスタイルをとっていたのですがそれを変えて生徒さんたちに問題を解かせるという形に変えました。全員がしっかり考えた後に解説をし理解してもらえるようにしたら、最後には授業楽しかったよってってもらえるくらいにグレードアップしたのでよかったですと思いました。

・今後の展望

ラトビアと違い、日本では自分で勉強する以外中々英語に触れられる環境がありません。しかし、これからもラトビアに限らず海外には行きたいし、そこでもまた友達を作りたいと思っています。それにはやはり、今の英語力では最低限のやり取りしかできないので、英語力の改善は私にとっての長い課題になりそうです。しかし、このプログラムに参加する前と後での英語に対する姿勢はかなり変わったと思います。嫌いな勉強ではなく、好きなこととして取り組んでいます。今後も興味のある国際関係のプログラムには参加していきたいですし、さらに英語もどんどん使っていきたいと思っています。

